

## 児童発達支援事業所における自己評価総括表

公表

○事業所名	運動療育型児童デイ ぼぶらの樹 住吉		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 21日		～ 令和8年 2月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 4名
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 21日		～ 令和8年 2月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 18日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもから大人まで生涯に渡ってトータル的にサポートすることで保護者様の将来の不安の軽減を図り、こどもの未来に希望や安心を届けている	法人内の生活介護事業所や就労継続支援B型への作業所体験を活動として取り入れ、将来に対するイメージや作業所がどんな場所かを少しでも知ってもらえるよう取り組んでいる。また、保護者様共々随時見学、体験、相談会を実施しており、卒業後の進路決定、スムーズな移行が叶うようにしている	将来だけでなく、現在の生活の中での保護者様の不安や困りごとを聞き取り、必要な福祉サービスを教示して繋げていくことで、ご家庭での生活の一助となるようにしていく。こどもの成長とともに変化するニーズに対応し、必要な情報を伝えられるようにしていく
2	保健体育教員免許・健康運動実践指導者資格、音楽教員免許・ピアノ講師免許、保育士などの資格を持った職員や、絵や工作が得意な職員が在籍しており、運動、音楽、創作など様々な活動支援を高いスキルで提供できている	様々な資格、特技のある職員がそのスキルを活かしながら分野ごとに取り組みを行い、充実した療育内容となっている。こどもの成長に合わせて、また、保護者様からのニーズを聞き取って療育内容に反映し、楽しみながらもしっかりとねらいや目的を持って取り組んでいる	資格、特技を活かした療育の中にも一つ一つこどもの成長に合わせた課題や目標を捉え、自立に向けてしっかりとねらいを立てた内容にすること、また、スキルアップを目指して療育内容も変化させていく
3	保護者参加型のイベントの開催や日々の連絡帳ではその日の様子を丁寧に伝えることで、こどもの成長をより身近に感じられたり、その日の状態がより分かりやすく保護者様の安心に繋がっている。また、SNSの活用もしており、情報発信を積極的に行っている	保護者参加型のイベントとしては「白ゆり祭り」で一年間の集大成としての舞台発表を披露している。また、他にもスポーツイベントなどでも頑張っている姿を身近に見ていただいている。日々の連絡帳では、様子を文章だけでなく、写真や動画で見せていただくことで、より分かりやすく伝えることができるようにしている。SNSの更新頻度を上げ、常に最新情報の発信に努めている	保護者参加型のイベントをもっと増やすことで、こどもたちの頑張っている姿、成長した姿を見る機会を増やしていく。また、イベントを通して保護者同士の交流の機会が持てたり、きょうだい児への支援にも繋げていけるようにしていく

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	環境面の安全基準や点検の見直し—設立から年月が経っていることでの老朽化や使用設備の破損などの定期的な確認が必要	これまで大きな事故や危険はなかったが、突発的に起こる災害や事故、利用者の成長に伴う行動面の変化などを考慮して、常に高い安全性を追求しながら環境整備を行っていく必要がある	定期的な室内外の安全点検は行なっているが、常に高い危機意識を持って安全確認ができるよう、定期的な安全研修や日々の朝終礼においても全職員が安全意識を高めつつ、小さなことでも気付ける「気付きの力」を培っていく
2	書類業務、事務作業が膨大、かつルールの改変の浸透が難しい	書類作成、記録に時間を要し、こどもたちとの関り、支援とのバランスが難しく、職員のもっと支援に比重を置きたいの思いがある。また、書類作成におけるルールの改変の浸透が行き渡らないことがある	書類業務は支援の土台であり、こどもたち一人一人の特性や成長を丁寧に振り返り、次の支援に活かす大切なプロセスが記録と書類整理であるという認識のもと、データ化できるものは更に進めていながら効率化を図っていく。また、定期的な書類研修を行い、全職員の理解浸透に努める
3	家族支援の充実	定期的な懇談、送迎時や電話等で随時相談援助を行うなど柔軟に応じているが、ご家庭の状況(仕事、きょうだい児の育児、介護等)や保護者様の特性などで十分な相談ができていないこともあるのではないかとこの思いがある	定期的な懇談の継続、連絡帳や送迎時での情報共有を引き続きしっかりと行いつつ、環境が大きく変わる状況や心身の変化が起こりやすい年齢、進路を考える時期などは特に積極的にこちらからも保護者様へのアプローチを行ったり、相談しやすい体制を整えていく